

宇 都 宮 短 期 大 学
2021 年度自己点検・評価報告書
(各委員会 PDCA 報告)

1. 自己点検・評価推進部会	P.1
2. 教務委員会	P.2
3. 入学試験・広報委員会	P.4
4. 学生委員会	P.6
5. キャンパス・ハラスメント防止・啓発委員会	P.7
6. 就職委員会	P.8
7. 研究・図書委員会	P.9
8. 地域福祉開発センター	P.10
9. 教職課程運営委員会	P.11
10. 大学運営・財務	P.12

2022 年 5 月

自己点検・評価委員会

2021年度 自己点検・評価推進部会 PDCA 表

Plan	Do	Check	Action
<p>I 基本方針 「内部質保証」の観点から、自己点検・評価活動等を充実する。</p> <p>① 内部質保証会議と自己点検・評価委員会、自己点検評価・推進部会等の有機的な連携を行う。</p> <p>② カリキュラムの見直しと学修の成果を測定するための量的・質的データのとり方とルーブリックによる評価方法の導入を図る。</p> <p>③ 教員の質の向上を目指し、教育方法の改善に関する取り組みを行う。</p> <p>④ 外部の有識者や卒業生等の意見聴取を行う。</p> <p>⑤ 2023年度に認証評価機関による認証評価を受審するための準備を進める。</p>			
<p>II 施策</p>			
<p>1. 新型コロナウイルスの感染防止のため、全学的・各委員会で対策・対応する。</p>	<p>①国や地方公共団体、各種養成施設協会等の新型コロナウイルス感染防止に関する指針や本学独自の全学的・委員会別対策を講じて実施した。</p> <p>②ポータルサイトに、新型コロナ関連の注意を喚起するための文書と載せるとともに、感染による欠席届、副反応による欠席届等を載せ、オンライン等の授業に対応できる体制を整えて、実施した。</p>	<p>①学内でのクラスターは、生じなかった。</p> <p>②欠席届等に伴うオンライン授業について、ほぼ問題なく対応できた。</p>	<p>①②ワクチン接種については任意ではあるが、その効果を周知し、接種を推奨する。引き続き感染対策を講じながら、授業に支障が出ないように進める。</p>
<p>2. 内部質保証</p> <p>(1)大学の理念、目的、中期計画、各種方針等に照らしながら、計画的に自己点検・評価委員会・推進部会を開催し、教育の質保証を目指す。</p>	<p>①中期計画を確認しながら、各委員会のPDCAを実施し、課題を明確にしながら進めている。</p> <p>②内部質保証会議、自己点検・評価委員会、自己点検推進部会を計画的に開催した(内部質保証会議:7/6開催、自己点検・評価委員会:4/9,7/6,10/8,3/4開催、推進部会:5/4,6/18,8/6,8/20,10/22,12/17,3/18開催)。</p> <p>③規程の点検として、令和3年度自己点検評価項目の改定に伴う学修の成果を量的・質的データとして把握するために、ルーブリック評価基準や評価方法、資格取得条件等を入れた3つのポリシーの改正を行った。</p>	<p>①各委員会のPDCA活動は問題なく進められている。</p> <p>②内部質保証会議の開催方法、時期を検討する。</p> <p>③評価基準や評価方法について専任、非常勤を問わずさらに共通理解を進める必要がある。</p>	<p>①中期計画確認しながら、各委員会のPDCAを実施し、教育の質保証を図っていく。</p> <p>②他の委員会等の開催状況を把握し、開催日時を調整しながら進める。</p> <p>③各学科の状況を把握し、共通理解を図る。</p>
<p>(2)カリキュラムの見直しと学修の成果を測定するための量的・質的データのとり方とルーブリックによる評価方法の導入を図る。</p>	<p>①音楽科の教職支援の充実を図るために、教職課程運営委員会を全学委員会組織の中に組み入れた。</p> <p>②音楽科は教職に関して、食物栄養学科は専門科目を主にカリキュラム見直しを行い、文科省、厚労省へ各々申請した。</p> <p>③ポートフォリオの導入とルーブリック評価の実施に向けてのFD・SD研修を実施した(7/30、「学習の成果を可視化するための質的測定法としてルーブリック評価について」)。後期に、専任教員のいくつかの科目でルーブリック評価と授業記録を試験的に実施した。</p>	<p>①教職課程運営委員会を全学委員会組織にすることで、学修支援の共有化ができた。</p> <p>②新年度から音楽科と食物栄養学科は、新カリキュラムによる教育・研究を開始した。</p> <p>③量的・質的データの把握を3学科で統一的行う必要がある。</p>	<p>①各委員会と同様に自己点検・評価活動を進めていく。</p> <p>②学修の成果を図りながら、新カリキュラムの妥当性について検討していく。</p> <p>③引き続きFD研修を計画し進めていく。</p>
<p>(3)教育・研究活動を点検する。特に、FD活動及びSD活動を組織的に実施し、教職員の質の向上を図る。また、研修会等の活動を通じ、コンプライアンス意識やモラルの向上を図る。</p>	<p>①前期・後期にそれぞれ「授業改善アンケート」を実施し、その結果を各教員並びに学科で検討した。</p> <p>②コンプライアンス意識やモラルの向上のための研究倫理FD・SD研修会を実施した(2/18)。</p> <p>③キャンパス・ハラスメント研修会を実施した(2/6)。</p> <p>④教職員の質の向上を図るためのFD研修として、教員相互の授業参観を実施した(10月～12月)。①～④は、FD・SD報告書にまとめた。</p> <p>⑤紀要への投稿を促した(音楽科7件、人間福祉学科・食物栄養学科9件)。</p>	<p>①④学科ごとの改善点等をまとめ、次年度の授業目標に反映した。</p> <p>②③の各種研修会は、教職員が参加し、研修の意義を確認した。</p> <p>⑤今年度の紀要投稿数は、昨年度よりも増加した。</p>	<p>①～④引き続き、FD・SD研修を企画し、教職員の質の向上を図る。</p> <p>⑤引き続き、教員の教育・研究活動を促進する。</p>
<p>(4)外部の有識者、卒業生等の意見を取り入れた評価を行う。</p>	<p>①卒業生からは、彩音祭参加者より、就職先からは、2・3月に意見を聴取した。これらは、令和4年4月の教授会にて報告した。</p>	<p>①意見聴取の結果は、概ね良好なものであった。外部の有識者による意見の聴取はできなかった。</p>	<p>①引き続き、卒業生や就職先への聴き取り調査を計画し、評価結果や指摘事項を共有し、内部質保証の向上を図る。</p>
<p>(5)内部質保証の客観性及び妥当性を担保するために、認証評価機関による認証評価を2023年度に受審する。自己点検・評価報告書の提出にむけた準備を進める。</p>	<p>①「自己点検評価報告書作成に向けての評価項目と書き方について」のFD研修会を実施し(7/9)、新基準での評価内容を確認した。3/4に2021年度報告書の作成スケジュールを周知した。</p> <p>②9/13～10/3に、短大基準協会のALO対象動画を各自視聴することをFD研修として実施し、自己点検評価項目を把握した。</p>	<p>①各委員会のPDCAをもとに、自己点検報告書の作成を行った。</p> <p>②全員が視聴し、評価項目について共通理解を深めた。</p>	<p>①②PDCAを回しながら自己点検・評価活動を計画的に進める。報告書作成スケジュールを共有し、期日までに2022年度の自己点検・評価報告書を作成する。</p>

2021年度 教務委員会 PDCA表

Plan	Do	Check	Action
<p>I 基本方針</p> <p>①教育課程の改善に対する取組みを行う。 ②学習成果・教育成果の可視化に関する取組みを行う。 ③資格・免許取得のための支援の充実を図る。 ④学生の卒業後評価への取組みを行う。 ⑤学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用する。 ⑥学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に行う。</p>			
<p>II 施策</p> <p>1. 教育課程の改善に対する取組みを行う。 ①教育課程編成・実施の方針を明確に示す。 ②教育課程は、短期大学設置基準にのっとり幅広く深い教養を培うよう編成する。 ③職業又は实际生活に必要な能力を育成するよう編成し、職業教育を実施する。</p>	<p>①短大基準協会の自己点検・評価項目に基づき、各学科の3つのポリシーについて検討した。その結果を11月5日の教授会にて審議し、「宇都宮短期大学の目的に関する内規改正」として了承された。 ②音楽科と食物栄養学科はカリキュラム改正に向けて検討し、音楽科は文科省に、食物栄養学科は厚労省に申請した(音楽科は教職科目、食物栄養学科は専門科目の見直し)。 ③①に基づき、ルーブリック評価を導入した成績評価の基準と、評価方法をシラバスに新たに記載することとし、新年度のシラバス作成を依頼した。 ④カリキュラムマップとツリーを更新した。 ⑤各学科ともに専門教育と教養を主体とした職業教育をするための教育編成になっているかを検討した。 ⑥建学の精神を4月の新入生オリエンテーションや全人教育講座で周知した。</p>	<p>①シラバスへの新たな記載事項は、受理時にチェックを行った。3つのポリシーは、新年度の学生便覧、シラバス、学校案内等に明記された。 ②2020年度の間福祉学科のカリキュラム変更に加えて3学科が新カリキュラムになったことから、学習効果のある教育の実践へとつなげていく。 ④各学科の学位授与方針とカリキュラムマップの整合性について、再検討の必要性がある。 ⑤各学科ともに、選択科目の履修者数を増やしていくことが課題である。</p>	<p>①～③更新した3つのポリシーを基に教育研究を推進する。 ④引き続き点検と検討を行う。 ⑤選択科目においては、履修者数を増やし、一般教養と専門教養の強化を図っていく。</p>
<p>2. 学習成果・教育成果の可視化に関する取組みとして、量的・質的データを用いて測定するしくみについて検討する。</p>	<p>①量的・質的データの測定する仕組みとしてポートフォリオとルーブリック評価の導入にむけて、FD・SD研修を実施した(7/30)。専任教員の担当科目において学科毎に検討し、後期から試験的に実施した。令和4年度からルーブリック評価による成績評価を実施することにした。 ②音楽科では独自の指標を取り入れていたが、令和4年度にGPAを導入すべく、準備を進めた。</p>	<p>①ポートフォリオは、3学科に共通した内容に至っておらず、さらなる検討が必要である。 ②導入に向けての準備、運用方法を見直した。</p>	<p>①3学科共通のポートフォリオの導入に向けて検討し、実施する。 ②引き続き、導入に向けて具体化していく。</p>
<p>3. 各学科の資格・免許取得のための支援の充実を図る。</p>	<p>①各学科とも、取得できる資格や支援について新入生や2年生のオリエンテーションで周知した。各学科では、取得できる資格の受験に向けて補習や模擬試験を実施して支援した(音楽科は教員免許18名、音楽療法士3名、その他ヤマハやカワイのグレード資格取得があった。食物栄養学科の栄養士実力認定試験成績が上昇した。フードスペシャリスト資格は7名取得した。人間福祉学科は、履修モデルの全員が介護福祉士・社会福祉士の資格科目を履修した。医療事務モデルは、メディカルクラークは8名、ドクターズクラークは4名取得した)。 ②担当教員を中心として、教員間の情報の共有と連携を図った。</p>	<p>①昨年度よりも、全体に資格取得希望者が多くなった。</p>	<p>①②ともに、引き続き、教員間で協力して資格取得を支援する。 ②資格取得に必要な実習について、実習先との連携を図っていく。</p>
<p>4. 学生の卒業後評価への取組みを行う。</p>	<p>①卒業生の就職先への卒業後評価調査は、令和4年2・3月に実施した。結果は、学科毎にまとめて令和4年度5月の教授会に提出するとともに、学科毎に教員で共有した。</p>	<p>①各学科ともに学習の成果に対して概ね良いとの評価が得られた。</p>	<p>①引き続き実施して、課題を把握しながら教育の質保証に役立てていく。</p>
<p>5. 学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用する。</p>	<p>①教員はシラバスに示した成績評価基準にそって学習成果の獲得状況を把握した。また、前・後期ともに「授業改善アンケート」を行った。 ②後期に、教員相互の授業参観を実施し、自己の教授法について改善点を把握した。①②の結果はFD・SD報告書としてまとめた。 ③1年生のクロムブックの活用を促進した。</p>	<p>②は初めての実施であったが、自己の教授法を顧みる良い教訓となった。 ③各学科とも専任教員を中心として情報発信・資料配付・レポート提出に活用していた。</p>	<p>①②ともに引き続き実施して、教授法の改善を図っていく。 ③クロムブックの有効活用を促進する。</p>

<p>6. 学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に行う。</p>	<p>①学習支援のオリエンテーションを入学時と後期開始前に実施した。 ②学生向けポータルサイトを設けて、シラバスや休講・補講等の掲示などの有効利用を図った。 ③授業内容について、授業担当者間で情報の共有・協力・調整をした。 ④基礎学力不足や優秀な学生に対する学習支援、学習上の悩みなどの相談・指導助言を行う体制については、教務、学生委員会、クラス担任、こことからだの相談室等で連携を組んで組織的に実施した。</p>	<p>②ポータルサイトをさらに充実させ、教務分野だけでなく、学生生活すべての分野での活用を促進する。</p>	<p>①～④について、継続する。</p>
-----------------------------------	--	--	----------------------

2021年度 入学試験・広報委員会 PDCA 表

Plan	Do	Check	Action
<p>I 基本方針 中期募集計画に基づき、魅力ある情報を発信して入学定員率の向上を目指す。</p> <p>①入学定員確保に向けての取組みを強化する。 ②入学者受け入れ方針に対応した入学者選抜を、公正かつ適切な実施する。 ③入学者に対する支援のしくみづくりを促進する。 ④アドミッションオフィスと連携して各種募集活動を円滑に行う。 ⑤情報収集と情報発信の充実を図る。</p>			
<p>II 施策 1. 入学定員の充足に向けた活動を強化する。</p>	<p>①入学定員の充足に向けて、DM 送付と感染防止対策に努めて高校訪問、進学ガイダンス参加、オープンキャンパスなどの活動を実施した。音楽科では高校訪問の他に、音楽教室や楽器店訪問活動を実施した。 ②2022 年版の学校案内及び入試ガイドの作成、HP 等の広報媒体の更新をした(HP の更新:5 月、その他資料作成:5 月の高校訪問前)。 ③外部の入試サイトを活用して、「魅力ある大学」を紹介した。マイナビやスタディサプリなどに本学の概要や在学生紹介を掲載した。 ④学園入試説明会への参加者の増加を図るために、訪問先や方法を再検討して実施した。 ⑤キャンパスを活用したイベント等を発信し、各学科の認知度向上を図った。オープンキャンパスは、実施後に HP にトピックスを掲載し、次回オープンキャンパスの案内をした。また、音楽科イベントや AYANE コミュニティ誌を HP に掲載し、随時更新した。</p>	<p>①オープンキャンパスでは、感染防止対策として、参加人数が多かった場合、会場を2つに分けて ZOOM で中継したが、聞き取り辛いなど課題があった。 ②例年、表紙等の傾向が同じになることから、2023 年度の入試に向けて、系列校や他大学の学校案内を参考にする。 ③外部入試サイトに掲載する際、今後も適切に掲載する学生などを選抜し各学科で掲載内容について検討する。 ④感染防止対策に努めて学園入試説明会を実施した結果、これまでに最も多い参加となった (36 校+附属高校)。 ⑤より関心を高めるために、掲載する行事やトピックスについて、さらに充実させる。</p>	<p>①～⑤について、引き続き入学定員の充足に向けて、の広報活動を見直し、改善して実施していく。</p>
<p>2. 入学者受け入れ方針に対応した入学者選抜を、公正かつ適切に実施する。</p>	<p>①入学者選抜の方法を再検討し、入学試験を公正かつ適切に実施した。 (人間福祉学科・食物栄養学科) 総合型選抜、学校推薦型選抜(指定校制)、学校推薦型選抜(公募制)、特待生入試、一般選抜、共通テスト利用入試を実施した。 (音楽科) 総合型選抜、学校推薦型・特待生選抜、一般・特待生選抜を実施した。 ②学校案内やリーフレット等に授業料、その他入学に必要な経費を明示した。</p>	<p>①前年度と同様に学校推薦型が多い結果となった。 ②2023 年度の学校案内等作成準備に向けて、改めて全学科の掲載項目の内容を確認した。</p>	<p>①引き続き、文科省のガイドラインに従い、新型コロナウイルス感染症に対応した総合型選抜や一般選抜、推薦型選抜、大学共通テスト等の入学者選抜を実施する。 ②2023 年度の学校案内、入学試験ガイドに明示する。</p>
<p>3. 入学者に対する支援のしくみづくりを行う。</p>	<p>①本学独自の奨学金制度を見直し、充実を図った。 (人間福祉学科・食物栄養学科) 学校推薦型選抜、特待生入試、一般選抜、共通テスト利用入試において、授業料免除の選考、入学前の資格基準による入学料免除を実施した。 (音楽科) 推薦・特待生選抜、一般・特待生選抜により、授業料、入学料免除の選考を実施した。 ②音楽科では 4 年制大学との比較における経済的優位性や有名音楽大学へ3 年次編入指定校で進学するメリットなどを、引き続き PR した。 ③入学手続き者に対して授業や学生生活に関する情報提供や入学事前学習の内容を検討して実施した。提出された事前学習課題は、各教員がコメントを付けて入学後に返却した。</p>	<p>①(人間福祉学科) 前年度に比べると授業料特待全学給付該当者および入学料特待全額給付該当者が減少した。 (音楽科) 前年度に比べると授業料全学および半額、入学料該当者は減少した。 ②音楽科では、オープンキャンパスや進学相談会などで、短期大学で学ぶメリットについてさらに検討する。 ③12・2 月の入学事前学習の課題提供に向けて、学科別に検討する。</p>	<p>①引き続き、入学者選抜の選考基準のつとり学力を評価し優秀な入学者に奨学金制度を適用していく。 ②引き続き、短期大学のメリットを PR していく。 ③引き続き、次年度入学生用の事前学習課題や情報提供等について検討していく。</p>

<p>4. アドミッションオフィスと連携して各種募集活動を円滑に行う。</p>	<p>①アドミッションオフィスと連携して業者主催進学ガイダンス及び出前講座の参加や学校見学の受け入れ等を円滑に実施し、本学の魅力を発信した。</p>	<p>①2021年度は、業者主催進学ガイダンス及び出前講座について43回参加、そのうち、新型コロナウイルス感染拡大により3回中止となった。 学校見学については、3校受け入れ、高大連携授業は8回の実施となった。</p>	<p>①引き続き、アドミッションオフィスと連携して業者主催進学ガイダンスや学校見学、高大連携授業等の募集活動を円滑に実施していく。</p>
<p>5. 情報収集と情報発信の充実を図る。</p>	<p>①情報管理システム「スタディサプリ」を活用し、情報の管理と有効活用を図っている。</p>	<p>①前期高校訪問や見学者の情報などをスタディサプリに入力し、情報の共有を図ることができた。</p>	<p>①引き続き、スタディサプリで高校訪問情報や各種相談会の参加者情報等を管理する。</p>

2021年度 学生委員会 PDCA 表

Plan	Do	Check	Action
<p>I 基本方針</p> <p>①学生が学習を円滑に継続できる支援体制を充実する。 ②心身の健康、保健衛生及び安全への配慮を充実する。 ③学友会活動を支援する。 ④卒業生への支援を行う。</p>			
<p>II 施策</p> <p>1. 学習成果の獲得に向けて学習支援を行う。</p>	<p>①新年度及び後期授業に向けてのオリエンテーションを学科別に実施した。(新年度 4/2・5・6、後期 8/31、9/6) ②合宿交流研修を学内研修に変更し、学科別に実施した(4/28)。 ③生活安全講話を、学科別に実施した(7/16・20、8/6)。</p>	<p>①～③ともに、学科別、時間短縮にて開催することで、感染リスクが軽減され、研修目的の一部(学科内のコミュニケーションの向上)が達成できた。 ③次年度も学科別の実施を企画する。</p>	<p>①～③ともに、新型コロナウイルス感染対策を講じながら、学科別・全体実施について検討し、具体化していく。</p>
<p>2. 学習成果の獲得に向けて学生の生活支援を行う。</p>	<p>①「学生生活に関する調査」を入学生は5月に、2年生は卒業前の1月に実施した。 ②新入学生全員がクロムブックを携帯し、学生生活支援にも活用した。 ③教育研究備品及びキャンパスアメニティについて、学友会総会及び学生の要望により適宜必要な備品を設置した(1号館ピアノ練習室ホワイトボード、PCルームやメディアルームに除菌シートを設置)。 ④学生が学びやすい環境を整えるために、「こころとからだの相談室」を運営して対応している。 ⑤クラス担任による学生個人面談・保護者個人別教育懇談会を実施した(個人面談:音 7/2・9、食・人 5～6月・9月、保護者個人別懇談会:音 8/27、食・人 7/30・8/10・9/17)。</p>	<p>①調査結果は、学科会議や教授会で情報を共有した。(2年生の「この学校に来てよかったと思うか」の質問項目では、97.4%の学生が「よかったと思う」もしくは「どちらかといえばよかったと思う」と回答し、学生生活における満足度は高いと考えられた。) ②クロムブックは、google classroomなどを導入して活用している。各学科とも専任教員を中心として、情報発信、連絡網、アンケート実施に活用された。 ③これからも要望に応じていく。 ④HPからの受付相談も取り入れ、相談しやすい体制にした。 ⑤学科会議や教授会で情報を共有した。学業、学生生活等に特に大きな問題はなく生活していた。就活については、保護者からの心配が多く寄せられた。</p>	<p>①引き続き「学生生活に関する調査」を実施する。また、次年度より進級学生を対象とした学生生活調査を行うことを検討していく。 ②クロムブックのさらに有効な活用を促進する。 ③引き続き教育研究備品及びキャンパスアメニティについて、学生からの要望に対応し施設の充実を図る。 ④「こころとからだの相談室」を継続して行う。 ⑤次年度も継続して個人面談を実施し、支援を行う。</p>
<p>3. 学友会活動を支援する。</p>	<p>①学友会総会を実施した(5/10・12)。 ②レクリエーションフェスティバルを行う予定であったが、新型コロナウイルス感染防止のための緊急事態宣言下のため中止にした(9/11)。 ③彩音祭を実施した。(11/13・14) ④感染対策を講じサークル活動を支援した。(2021年度活動16団体、休止29団体) ⑤学生のボランティア活動を促進した。 ⑥ラクロスサークルを新設した。</p>	<p>①学友会総会を開催し、今年度の活動方針を決定し、各種活動の支援をした。 ②次年度はレクリエーションフェスティバルとして実施できるよう、感染防止対策をして企画する。 ③感染に気を付けて模擬店や各イベントを実施し、学生からも好意的な意見が多かった。 ④感染対策を講じながらサークル活動を支援し、少しずつであるが活動は活発になってきている。 ⑤コロナの影響で学生のボランティア活動は少なかった。 ⑥新設サークルの活動をさらに支援していく。</p>	<p>①～⑥引き続き、活動方針に即した支援をしていく。</p>
<p>4. 卒業生への支援を行う。</p>	<p>①同窓会(爽風会)運営・同窓会総会の実施を支援した(総会実施11/14)。 ②爽風だよりの発行を支援した。音楽科(彩音会)のAYANEコミュニティの発行を支援した。</p>	<p>①同窓会(爽風会・彩音会)総会の出席者は、昨年度よりも多かった。 ②AYANEコミュニティの発行は、卒業生に喜んでいただけた。</p>	<p>①次年度も継続的に同窓会(爽風会・彩音会)運営・同窓会総会の実施を支援する。 ②次年度も継続的に爽風だよりの発行を支援する。</p>

2021年度 キャンパス・ハラスメント防止・啓発委員会 PDCA 表

Plan	Do	Check	Action
<p>I 基本方針</p> <p>①キャンパス・ハラスメントの概念について、学生および教職員間で認識を共有するとともに、キャンパス・ハラスメントの防止啓発に努める。</p> <p>②キャンパス・ハラスメントの 研修と啓発活動を実施する。</p> <p>③相談体制の充実を図る。</p>			
<p>II 施策</p> <p>1. 学生、教職員に対し、キャンパス・ハラスメント防止のための活動を行う。</p>	<p>①4月のオリエンテーション(学生生活ガイダンス)において、キャンパス・ハラスメントについてと相談体制について、パンフレットと学生便覧を使用して周知した。その後、キャンパス・ハラスメントについてのアンケートを実施した。</p> <p>②卒業時の「学生生活に関する調査」アンケートによりキャンパス・ハラスメントの発生状況を把握した。</p> <p>③教職員を対象としたキャンパス・ハラスメント防止のFD・SD研修会を開催(12/16)し、アンケートを実施した。また、本学におけるキャンパス・ハラスメント防止に関する規程および宣言内容を研修し、規程の改正を行った。</p> <p>④現在の教育現場におけるキャンパス・ハラスメント防止に関する新たな情報を収集し、リーフレットを改訂した。また、本学におけるキャンパス・ハラスメント防止に関する規程および学長による「キャンパス・ハラスメント防止・啓発宣言」を次年度の学生便覧に掲載した。</p>	<p>①アンケート結果では、2～4年生はハラスメントの種類や内容等を理解しているようであったが、1年生は約半数の学生が種類や内容について知らないと回答した。相談相手については友人や家族という回答が多く、誰にも相談しない学生もいた。2～4年生は、言動には気を付けようと思う・自分が加害者にならないようにしたい等の意見があり、オリエンテーション時の周知によって自覚をもって生活をしていることが分かった。</p> <p>③アンケート結果より、研修の内容を十分に理解した・参考になったという回答が60%を超え、具体的な判例で分かりやすかった、という声が多く寄せられた。また、キャンハラを意識や制度の充実化は重要である、今回の研修で更に意識を高めるきっかけになった等の意見もあった。今後希望する研修内容については、ハラスメントの種類別の事例に基づいた内容や、LGBTの学生への対応方法を具体的に知りたい等、様々な意見が寄せられた。研修会にてキャンパス・ハラスメントの意義を共有した。</p>	<p>①次年度4月のオリエンテーション時に、キャンパス・ハラスメントと相談体制について周知するとともに、改訂したリーフレットを活用して防止・啓発を図っていく。</p> <p>②次年度も卒業時の「学生生活に関する調査」アンケートを実施し、キャンパス・ハラスメントの発生状況を把握する。</p> <p>③次年度も教職員を対象に、教職員から提案された研修内容を検討し、キャンパス・ハラスメント防止・啓発についてのFD・SD研修会を開催する。</p>
<p>2. キャンパス・ハラスメントの相談体制を整える。</p>	<p>①キャンパス・ハラスメント相談員を配置した。</p> <p>②クラス担任や「こころとからだの相談室」担当者と連携し、キャンパス・ハラスメントの対応を実施した。また、「こころとからだの相談室」では、4月の健康診断結果が要検査であった学生30名に対し、健康相談として面談を実施して対応した。</p>	<p>①2021年度において、相談員への相談はなかった。</p> <p>②クラス担任や「こころとからだの相談室」担当者へ、キャンパス・ハラスメント(こころの相談)に関する相談はなかった。健康相談では、医療機関受診を促し、精密検査の有無や、経過観察について確認しながら対応した。</p>	<p>①次年度もキャンパス・ハラスメント相談員を配置する。</p> <p>②引き続き、クラス担任や「こころとからだの相談室」担当者と連携し、キャンパス・ハラスメントの対応をしていく。</p>

2021年度 就職委員会 PDCA 表

Plan	Do	Check	Action
I 基本方針 学生が希望する就職・進学に向けて支援活動を強化して実施する。 ①支援活動の充実を図る。 ②進学支援活動等の充実を図る。			
II 施策 1. 就職支援活動に関する総合的な支援体制の推進	①3 学科合同、学科別就職ガイダンスを実施した。 (3 学科) 前期・後期ガイダンス、クラスアワーにて学内サポート体制の説明、ハローワーク活用法などを説明した。 (音楽科) 1・2 年生合同の就職ガイダンス(7/8,2/22) (人間福祉学科・食物栄養学科合同) 1 年生対象就職ガイダンス(7/9) (人間福祉学科) 2 年生対象就職ガイダンス(7/21) ②担任による 1・2 年生対象進路希望調査及び進路支援活動を、前期は 5 月以降、後期は 9 月以降個別面談を通して実施した。保護者個人別懇談会を行い、学校生活や進学・就職状況について面談した。 (音楽科:8/27、人間福祉学科 1 年生:9/17、2 年生保 9/17、食物栄養学科:1 年生 9/17、2 年生 7/30,8/19) ③宇都宮共和国と合同で、保護者向け就職ガイダンスを開催した(6/12)。 ④ハローワーク職員による学内相談を月 1 または 2 回実施した。ハローワーク学内相談の予約方法として、事務局窓口での予約のほか、新たにメールでの予約を導入した。 ⑤学科別就職・進学説明会を開催した。 (音楽科) カワシステム講師就職説明会(7/8)、ヤマハシステム講師就職説明会(2/22)、4 年制大学編入希望学生向け説明会(7/7) (人間福祉学科) 社協主催「福祉の仕事フェア」へ参加を促した(6/26)。 (食物栄養学科) 給食受託企業による説明会(5/17,7/5)、卒業生による就活・就業体験談話会(7/10) ⑥SPI (性格診断) を 3 学科合同で行った(9/13)。	①各学科ともに就職進学ガイドブックを配布し、就職活動への情報収集等について説明した。ガイダンスに基づき、就職委員や担任の指導を受けながら、就職活動、3 年次編入の活動を進められた。 ②就職希望・就職活動状況については、5、6 月に聞き取りを行い、学生の希望や就職活動の進捗を個別に聞き出し、支援を進められた。進路未決定者については呼び出し、継続的に面談を行うことで内定に繋げることができた。保護者個人別懇談会では、家庭での就職に対する意識や支援について確認することができた。 ③家族ができる就職支援について理解を深める機会となり、好評であった。 ④年間 14 名の学生がハローワーク個人相談を利用した。職員からのアドバイスが就職活動に役立つ等の声が聞かれ、学生にとって有益な機会となった。メール予約も可能となり、利便性が上がった。 ⑤学科別の特徴に対応した支援ができた。 (音楽科) 音楽系企業の募集資格等について確認し、各々の企業の特性を理解し、就職への意識が高まった。4 年制大学編入希望学生に心構えや準備について指導し、編入学試験に向けての対策ができ、合格に繋げることができた。 (人間福祉学科) 県内施設とつながりを持ち就職活動前の施設見学の予約に繋がった。 (食物栄養学科) 企業説明会により給食受託企業への就職希望者の活動が促進された。卒業生による談話会では栄養士の仕事に関する理解を深め、就職活動に対する意識が高まった。 ⑥SPI の実施内容については業者と連携を取り実施し、学生の自己覚知に繋がった。	①今後も引き続き、就職・進学支援活動を推進する。 ②引き続き、感染症対策を行いながら就職活動状況に合わせ個別面談を進める。同時に保護者個人別懇談会にて保護者との面談を行っていく。 ③引き続き、保護者向け就職ガイダンスを計画し内容を検討の上実施する。 ④開催回数を検討し、ハローワークの学生サポートを引き続き実施する。 ⑤引き続き、学科別に就職・進学支援説明会を企画して実施していく。 (音楽科) 引き続き音楽系企業の就職説明会を実施するほか、地元楽器店からの求人情報等の連絡を密にしていく。編入学先として有力な 4 年制大学の OC 参加を促していく。 (人間福祉学科) 福祉の仕事フェアは対面説明会のほかオンライン説明会も開催を始めたため、早い時期からの説明会参加を促す。 (食物栄養学科) 学外の企業説明会の案内、学内での企業説明会の開催を早い時期から実施する。就活・就業体験談話会を継続して実施する。 ⑥SPI の必要性を業種ごとに確認し、実施を検討する。
2. 進学ガイドブックの活用と改善	①進学ガイドブックの改訂を行い、配布した。 ②次年度のポータルサイトへの掲載を念頭に置き、掲載内容を検討し、準備した。	①学内就職スケジュール、学内での就職支援について必要に応じて利用しているようだ。 ②新年度からポータルサイトへの掲載となり、いつでもアクセスできるようになった。	①②さらに内容を整理し、学生の活用を促進する。
3. キャリアに関する講座の開講と周知	①外部講師による 1 年生対象の「就職対策講座」を、内容を検討し開講した(9/13,10/11・18・25,11/1)。	①1 年生対象の講座であるため、休まないように周知しながら進め、学生は就職活動準備に必要な基礎知識を得ることができた。	①引き続き、外部講師と連携を取り、開催時期、内容、講座回数を検討し開催する。
4. (進路) 活動激励会	①就職 (進路) 活動激励会を企画し、実施した(1/14)。	①1 年生の就職活動に対する自覚が促された。	①開催時期を検討し、激励会を通して就職活動への意識啓発に努める。

2021年度 研究・図書委員会 PDCA 表

Plan	Do	Check	Action
I 基本方針 ①教育研究の質の向上のために、人的資源の充実を図る。 ②物的資源(施設・設備)の維持・更新を適切に行う。 ③技術資源をはじめとするその他の教育資源の充実と向上を図る。			
II 施策 1. 学生の学習活動と教員の教育・研究活動の支援 ①人的・物的・財的資源を総合した図書館の環境整備をすすめ、学生と教職員を支援する。 ②「としょかんかわら版」を活用して、図書館の周知を図る。 ③シラバス記載の参考書を整備することで、学習支援を行う。 ④他館や研究機関等との連携協力をさらに進め、レファレンス業務を通して支援する。 ⑤日常の授業のほか、卒論指導等で、アクティブラーニングによる図書館の利活用を、教授会 (PDCA 表) 等で教員へ促進する。 ⑥図書館等の専門的職員 (司書等) は、学生の学習向上のために支援を行う。 ⑦図書館の資料類の充実および刷新を図る。	①図書館の環境整備として、コロナ禍対策のパーテーションを館内閲覧机に設置して、学生と教員の学びの場を支援した。 ②「としょかんかわら版」を紙ベースからメール配信に切り替え (長期休暇の8月3月除く) 毎月発行した。添付の「資料購入リクエスト」で随時学生と教員の希望資料を受付けて、教育・研究の活動を支援した。 ③2021 度のシラバス記載に合わせて参考図書等を刷新した。所蔵済みの資料も最新版を購入し、新しい情報を提供した。 ④今年度は、学生・教員から 220 件のレファレンスがあり、司書等は所蔵図書・事項調査等に適宜対応した。 ⑤日常の授業のほか、アクティブラーニングによる図書館の利活用を促進するために、各科の専門分野の最新情報を提供出来るよう選書を行い、蔵書の充実を図り学生と教員の支援をした。 ⑥利用者に関して 2020 年度の入館者 9,778 名 (貸出数 3,473 点) からアップして 11,477 名 (貸出数 3,006 点) であった。 ⑦資料総数は図書 45,365 視聴覚 12,209 楽譜 15,789 で 73,363 点を数えた。	①図書館の環境整備の継続に努めており、コロナ禍対策を含めて学生と教員の学びの場を支援できた。 ②「としょかんかわら版」を、メール配信にしたことで発行の手間が削減され、最新情報の発信が利用増加に繋がり、「資料購入リクエスト」に応えられた。 ③最新参考図書の配架は、授業アンケート結果から学習支援に役立っていることが分かった。 ④アクティブラーニングによる図書館の利活用を促進する教員への支援の成果は、教員の授業報告書からも確認できた。 ⑥利用者増加につながる方策をさらに検討していく。 ⑦購入の一方で、計画的な廃棄や定期購読雑誌の一部中止等を学内に広く諮り、検討していく必要があり始動した。	①2022 年度も環境整備に努め、学生と教職員を支援していく。 ②「としょかんかわら版」は引き続きメールで配信し、「資料購入リクエスト」には積極的に応えていく。 ③2022 度もシラバス記載の参考図書の配架を継続する。 ④司書等は学生・教員の学習・研究向上のために所蔵図書・事項調査等積極的に支援していく。 ⑤引き続き、日常授業やアクティブラーニングによる図書館の利活用を促進する教員への支援を行う。 ⑥例年の学習向上のための支援に加えて、できることを考えながら実施する。 ⑦購読逐次刊行物 (雑誌) 購読の継続見直しを続行する。
2. 研究関連 ①専任教員の研究活動 (論文発表、学会活動、その他) は学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて成果をあげるために、学会報告や紀要投稿等を奨励した。紀要投稿数は、音楽科 7 件・人間福祉学科 7 件・食物栄養学科 2 件と、昨年度よりも増加した。 ②専任教員個々人の研究活動の状況を引き続き「研究者名鑑」で HP 上で公開する。 ③専任教員の科学研究費補助金、外部研究費等の獲得を奨励する。 ④コンプライアンス意識やモラルの向上のための FD・SD 研修を実施する。	①専任教員の研究活動 (論文発表、学会活動、その他) は学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて成果をあげるために、学会報告や紀要投稿等を奨励した。紀要投稿数は、音楽科 7 件・人間福祉学科 7 件・食物栄養学科 2 件と、昨年度よりも増加した。 ②専任教員の各研究活動の状況を「研究者名鑑」にて HP 上で公開した。 ③専任教員の科学研究費補助金、外部研究費等の獲得を、教授会や各学科専任教員会議等で奨励した。科学研究費補助金の継続研究が 3 件であった。 ④コンプライアンス意識向上のための FD・SD 研修を企画・実施した。	①学会報告や紀要投稿等を奨励した結果、投稿数が大幅に増えた。 ②「研究者名鑑」を継続的に公開掲載し、研究活動状況を公表している。 ③専任教員の科学研究費補助金、外部研究費等の獲得を引き続き奨励する必要がある。 ④コンプライアンス意識向上のための FD・SD 研修の実施で、共通認識ができた。	①引き続き専任教員の研究活動を支援するために、学会報告や紀要投稿等を奨励していく。 ②引き続き HP 上で公開していく。 ③引き続き専任教員の科学研究費補助金、外部研究費等の獲得を、教授会や各学科専任教員会議等で奨励していく。 ④来年度もコンプライアンス意識向上のための FD・SD 研修を企画・実施する。
3. 教育研究経費 ①教育研究経費は経常収入の 20% 程度を超えるようにする。 ②教育研究用の施設設備及び学習資源 (図書等) についての資金配分を適切に行う。	①教育研究経費を経常収入の 20% 程度を超えるようにした。 ②教育研究用の施設・設備及び学習資源 (図書等) についての資金配分を適切に行った。	①教育研究経費を経常収入の 20% 程度を超えたことを確認した。 ②教育研究用の施設・設備及び学習資源 (図書等) についての資金配分を適切である。	①引き続き教育研究経費を適切な割合で有効活用していく。 ②教育研究用の施設・設備及び学習資源 (図書等) についての資金配分を引き続き適切に行なっていく。

2021年度 地域福祉開発センター PDCA 表

Plan	Do	Check	Action
<p>I 基本方針 地域に開かれた大学として、社会連携・社会貢献の視点から音楽・福祉・健康と栄養分野の「研究」「教育」「地域連携・地域貢献」研究活動を行う。</p> <p>①地域・社会に向けた公開講座、生涯学習事業、正課授業の開放（リカレント教育を含む）等を実施する。</p> <p>②地域・社会の地方公共団体、企業（等）、教育機関及び文化団体等と協定を締結して連携する。</p> <p>③教職員及び学生がボランティアの活動等を通じて地域・社会に貢献する。</p>			
<p>II 施策</p> <p>1. 地域・社会に向けた公開講座、生涯学習事業、正課授業の開放（リカレント教育を含む）等を実施する。</p>	<p>*下記行事を実施した。</p> <p>（音楽科）リカレント教育のためのピアノ研修会</p> <p>①今井顕ワークショップ(5/29・7/10・9/4・1/22)</p> <p>②音楽療法士専攻コースリカレント教育（5/7・7/2・8/20・3/25）</p> <p>③日光英国・イタリア大使館別荘記念コンサート(8/7)</p> <p>④赤松林太郎 演奏&レクチャー(2/11)</p> <p>⑤栃木トヨタミナテラス(10/31、2/20)</p> <p>⑥大城依子先生リトミック公開講座(9/23)</p> <p>（人間福祉学科・食物栄養学科）リカレント教育</p> <p>①対人援助職のためのリカレント教育（オンライン3/19）</p> <p>②介護職のためのリカレント教育（介護職員スキルアップ研修（オンライン3/22）</p> <p>③子どもの食事（母親対象）8/29→コロナ禍のため中止</p> <p>④低栄養のための食事（高齢者対象3/26）、</p> <p>⑤生活習慣病予防の為食事（中高年対象1/22→コロナ禍の為中止）</p> <p>⑥管理栄養士国家試験対策開放授業(後期)</p> <p>⑦出前講座（食物栄養学科）2件（7/2、7/27）</p>	<p>（音楽科）2020度は、コロナ禍の影響で、中止になった講座が多かったが、2021度は、コロナウイルス感染症予防対策に努めながら多くのイベントが開催できた。卒業生や地域の方々が参加し、喜んでいただいた。</p> <p>（人間福祉学科）「コロナ禍で出席を控えている福祉職」については、Zoomを活用したオンラインによるリカレント教育の実施にすることで出席が可能となり、参加者間の交流の場にもなった。</p> <p>（食物栄養学科）調理関係の講座の実施はコロナ禍による影響で実施ができなかったが、管理栄養士国家試験対策開放授業は全15回（出席者合計112名）開講できた。</p>	<p>引き続き、広報活動（HP,通信等）をふまえ、コロナウイルス感染予防策に留意した開催方法（賛同の多かったオンラインでの実施を含む）で、地域のニーズを踏まえた計画を立てて実施していく。</p>
<p>2. 地域・社会の地方公共団体、企業（等）、教育機関及び文化団体等と協定を締結して連携する。</p>	<p>*下記行事を実施した。</p> <p>①とちぎ子ども未来創造大学講座（栃木県教育委員会）8/19→感染拡大防止のため中止</p> <p>②社会福祉行政新任職員研修会（栃木県社会福祉協議会）</p> <p>③宇短附高校生活教養科3年「福祉授業」（4/22）</p> <p>④宇短附高校生活教養科1年「福祉体験授業」（7/16）</p> <p>⑤宇短附高校生活教養科2年「高大連携特別授業」（10/9）</p> <p>⑥宇短附高校普通科応用文理コース2年(9/15・9/22・10/7)</p> <p>⑦宇短附高校調理科1年「福祉特別授業」（10/9）</p> <p>⑧宇短附属中学校2年「福祉特別授業・高齢者の音楽療法」（11/17）</p> <p>⑨わくわく春の大学体験講座(2022年3/19)</p> <p>⑩東武百貨店文化講座(1)9/6,9/20 (2)9/13,9/27 (3)10/4,10/18 (4)10/12,10/26 (5)11/5,11/19 (6)11/8,11/22</p>	<p>①コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した講座もあるが、教育機関との交流企画については、「集会での感染症対策（厚生労働省）」に準じて対策を踏まえ実施できた。</p> <p>②企業（東武宇都宮百貨店）との連携講座については、コロナウイルス感染予防に留意して開講し、参加者に喜んでいただいた。</p>	<p>引き続き、感染予防対策に留意しながら計画及び実施していく。</p>
<p>3. 教職員及び学生がボランティアの活動等を通じて地域・社会に貢献する。</p>	<p>*下記行事のうち、②、④、⑨、⑩は実施した。①、③、⑤～⑧、⑩はコロナ禍のため中止となった。</p> <p>①「福祉車両」展示コーナー（栃木トヨペット）、②長坂のサンマ祭り11/14、③福祉施設の制作物の展示・販売、④Tiny(障害幼児と親子のつどい YouTube 配信 2/15)、⑤栃木県済生会宇都宮病院緩和ケア病院でのミニコンサート、⑥日本赤十字足利赤十字病院、⑦上都賀総合病院認知症カフェアダージョ、⑧社会福祉法人正栄会 南の里クリスマス会（南の里デイサービスセンター/ケアハウス・あい・あははり）、⑨宇都宮市医療型児童発達センター（かすが園）、⑩社会福祉法人恵友会 こども発達支援センターぴーち、⑪学生ボランティア活動(まちなかクリスマスフェスト 12/3～12/12)</p>	<p>①コロナウイルス感染予防に留意し、可能な範囲と方法で実施した。尚、感染対策が心配される講座については、YouTubeでの配信を試みた（一部のイベントや医療機関、福祉施設での活動は中止）</p> <p>②学生のボランティア活動については、地域での活動として実施及び参加できた。</p>	<p>引き続き感染予防対策に留意しながら計画及び実施していく。</p>

2021年度 教職課程運営委員会 PDCA 表

Plan	Do	Check	Action
<p>I 基本方針 教職志望で教職課程を選択した学生の学修に向け、適切な学修支援を行う。</p> <p>① 教職課程の講座や教育実習等の指導体制の充実を図る。</p> <p>② 教員採用試験に向けての支援体制を強化する。</p>			
<p>II 施策</p> <p>1. 教職課程の講座の充実を図る</p> <p>①教職課程担当教員の意識向上と教員相互間の情報共有</p> <p>②授業の改善</p> <p>③学修支援</p>	<p>①定期的に教職課程運営委員会を開催し、受講学生についての情報共有や、支援体制充実のための情報交換及び教員間の相互連携を図った。</p> <p>②学生による授業評価等に基づく授業内容・方法の工夫・改善や、教員間相互の授業参観等により、授業の充実を図った。</p> <p>③学生の相談等に対応できる体制の充実に努めた。</p>	<p>①定期的に教職課程運営委員会を開催して目的を達成できた。</p> <p>②授業の相互参観等により、授業の改善につながった。</p> <p>③学生からの相談には随時対応できた。</p>	<p>①～③授業の一層の改善に努めるため、最新の教育動向等も研究し、担当者間で共有する。令和4年度は新任の教職科目担当者もいるので、共通理解・情報の共有に努める。</p>
<p>2. 教育実習及び介護等体験等の指導体制の充実を図る</p> <p>①日常的な指導・支援による心構え・意識の醸成</p> <p>②実習受け入れ機関等との連携の強化</p> <p>③実習期間中を中心とした支援体制の充実</p> <p>④新型コロナウイルス感染症対策</p>	<p>①実習生の在り方等について、講義等とおして適時指導した。</p> <p>②指導訪問等とおして教育実習校等との連携を深め、実習の効果を高めた。</p> <p>③学生や実習機関等と連絡を取るなどして、学生の支援にあたった。</p> <p>④事前指導で健康観察等を徹底させるとともに、状況等を勘案しながら実習期間や実習校の変更等には柔軟に対応し、学生の支援にあたった。</p>	<p>①介護等体験の事前指導では他学科の先生の協力も得て進めることができたが、一部学生に意識の低い者がいて指導を要した。</p> <p>②県内・近県の教育実習校のほとんどに巡回指導を行った。学生は、教育実習をやりとげたことに大きな充実感を感じていた。</p> <p>③各学生と直接連絡を取れる手段を確保し、必要に応じて相談・支援ができた。</p> <p>④健康観察等は徹底でき、無事に教育実習を終了することができた。</p>	<p>次年度は、事前指導の内容を一層改善する。</p>
<p>3. 教員採用試験に向けての支援体制の充実を図る</p> <p>①教員採用試験対策プログラム（教職講座）の実施</p>	<p>①昨年同様2年生対象の講座を時間割に組み入れて実施した。また、卒業生対象の講座を新規開講した。</p>	<p>①講座を受講した卒業生3名が教員採用試験の一次試験を通過した。うち1名が栃木県に正式合格となった。</p>	<p>①次年度も同様に実施する。夏休みに二次試験対策も実施する。</p>
<p>4. 次年度からの教職課程の変更に対応する</p> <p>①自己点検・評価の義務化への対応</p> <p>②ICT活用に関する内容の修得促進への対応</p>	<p>①本学全体の自己点検・評価の方向性と整合したものとすべく、その在り方についての研究を深め、一部を試行的に実施してみるなどして、義務化への準備を進めた。</p> <p>②教職課程認定基準等の改正に伴うコアカリキュラム作成など、情報を収集しながら準備を進め、2月末までに文科省に届出を行った。</p>	<p>①本年度から本学全体の自己点検・評価に加わり、次年度からの義務化に備えることができた。</p> <p>②教職課程認定基準等の改正について研究を進め、カリキュラムの変更、講座担当者の選定、コアカリキュラムの作成等を進め、文科省の認可をうけ開講の準備が整った。</p>	<p>①自己点検・評価の義務化開始に適切に対応していく。</p> <p>②新規開講科目について、担当者とともにその望ましい在り方について研究していく。</p>

2021年度 大学運営・財務 PDCA 表

Plan	Do	Check	Action
<p>I 基本方針 大学運営について中期計画に基づき、大学の理念・目的の実現、財務基盤の改善をする。</p> <p>①大学運営に関する中期計画の遂行を実施する。 ②教育研究を安定して遂行するための財務基盤を更に改善する。 ③大学の規定に基づいた管理運営を行う。 ④事務組織の資質向上による業務の効率化を図る。</p>			
<p>II 施策 1. 財務・管理運営について</p>	<p>①中期経営計画（2020～2024年度）を着実に遂行した。 ②中期計画の進捗状況を精査した。 ③ガバナンス・コードに基づく管理・運営を行った。 ④イントラネットによる情報共有（学生・教職員）の充実を図った。 ⑤構内設備の安定・高速化及び災害リスクへの対応をした。 ⑥無線 LAN 環境の整備・増設をした。 ⑦サーバーのアウトソーシングを推進した。</p>	<p>①②中期計画については入学生の確保が計画通り達成できていないが徐々に増加傾向にある。</p> <p>⑤構内設備の安定・高速化及び災害リスクへの対応については事務局員と外部業者で随時対応を行っている。 ⑥無線 LAN 環境の整備・増設では wi-fi 環境整備で増設し接続状況が改善した。 ⑦アウトソーシング後の問題点に対処する。</p>	<p>①②中期計画の修正を行う。</p> <p>⑥Wi-fi 環境整備について、更なる環境整備の計画をする。 ⑦サーバーのアウトソーシングの実施検証とその活用方法を検討する。情報共有の充実を継続していく。</p>
<p>2. 新型コロナウイルス感染症対策</p>	<p>①文科省・厚労省・栃木県からの通達文書への対応と、本学独自の対応をしながら実施した。</p> <p>②学内の環境整備と危機管理を検討しながら実施した。</p>	<p>①通達文書への対応と、本学独自の対応等は緊急事態宣言等も踏まえ「新型コロナウイルス感染防止について」の文書で HP、一斉メール等で周知した。</p> <p>②サーマルカメラ・飛沫パーテーション等の設置、諸注意の掲示、講義では学生座席の指定等学内の環境整備と危機管理を行っている。学内でのクラスターの発生はない。</p>	<p>①感染防止とその対応について教員・学生への周知は実施した。全学生の理解に温度差があるのでその対応策を検討する。</p> <p>②施設・環境整備についてその維持を継続する。</p>
<p>3. 学生への修学支援について</p>	<p>①高等教育修学支援新制度の案内と支援体制の充実を図った。</p> <p>②機関要件確認申請を更新した。 ③学納金納入期日の柔軟な対応を（延納・分納、期日の延期）した。</p>	<p>①高等教育修学支援新制度の案内はガイダンスや電子掲示板等で学生に周知し、係（事務局）が説明会を実施した。 ②今年度も機関要件確認申請を更新した。学生へ周知され学生支援緊急給付金の三次追加募集に該当者はいなかった。</p>	<p>①継続して学生への周知に努める。きめ細かな説明等を継続する。</p>
<p>4. 事務局の効率化と専門能力の向上について</p>	<p>①SD 研修を計画・実施した。</p> <p>②定期ミーティングを実施した。</p>	<p>①SD 研修を計画・実施について、外部講習に ZOOM であるが参加するなど実施し、FD・SD 報告書をまとめた。 ②定期ミーティングは毎週金曜日に実施をしている。事務局内での情報の共有はほぼできていた。</p>	<p>①内部・外部の SD 研修の機会を増やしていく。</p>
<p>5. アドミッションセンターの活動</p>	<p>①アドミッションセンター員と教職員の連携を図った。 ②アドミッションセンターを中心にキャンパス間の連携を図った。 ③HP の「オンラインオープンキャンパス」を更新した。</p>	<p>①②アドミッションセンター員と教職員の連携やキャンパス間の連携は随時緊密に行っている。</p>	<p>①②アドミッションセンター員との連携は継続していく。</p>